

平成10年夏季展示企画


能面にみる能の世界

— 能面は今も生きている —



7月18日(土) ▶ 9月13日(日) 主催 大阪府立弥生文化博物館
能面を作る会

- 開館時間：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで） ■ 休館日：毎週月曜日（7月20日〔月〕は開館、21日〔火〕は休館）
- 入館料：個人＝一般300円・高大生200円、小中生・65歳以上は無料、団体＝一般240円・高大生160円（団体は20名以上）
- 所在地：〒594-0083 和泉市池上町443 TEL：0725・46・2162 ■ <http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>
- 交通：JR阪和線天王寺駅から25分「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分
- 考古学講座 — 学芸員が語る邪馬台国時代 —：9月13日〔日〕 午後2時～4時（1時から受付） 場所＝1階ホール

 大阪府立弥生文化博物館

美しい面、妖しい面それは演者によって活かされる時を待っている

能の演者は、装束を着け終わると「鏡の間」の大きな鏡の前で面をかけます。

演者は自分の演技を託す面の特徴や、能面作者の狙いをはっきりとつかんだ上で、おもむろに面を手にし、押し載いて、はじめて面を顔につけます。演者の演技をたすける面と、演者の演技によって活かされる面の葛藤が、この時点から始まることになります。

能面

面をつけると人は化身します。それゆえに古代から、面は神や仏のまつりに関わってきました。

仮面劇は、中世に猿楽から能楽へと変貌し芸術的に高められますが、面の持つ力は変わりません。

このたびは、匠の心を伝える現代の新作能面とその技を展示いたします。能面の持つ表情のなかに日本文化の伝統を感じとっていただければ幸いです。



小午討 (初番目物に用いられる)

能の演能は本来、五番立でおこなわれるものです。

はじめに演じられるものを初番目物といい、神系で翁について演じられる能です。二番目物は修羅能といい、殺伐とした戦いの中で生涯を送った者がテーマの能です。三番目物は鬘能といい、主役がすべて女性で構成される能です。四番目物は雑能といい、五番立のうち、狂女物に演じられる能です。五番目物は切能といい、切とは結末のこと、五番立の最後に演じられるものです。

このような五番立に演じられる能面をご覧ください。



平太 (修羅能に用いられる)

演能は、多くの場合、同一の演者の役割が前場と後場で変わります。一曲中に使用される能面は、その変化に対応するものです。

旅僧の夢に現われる亡者の姿を追う「夢幻能」と、現状での活躍を現在進行形で展開する「現在能」の2つの形式の能があります。

これらの演目別で構成される主な能面を紹介します。



若女 (鬘能に用いられる)

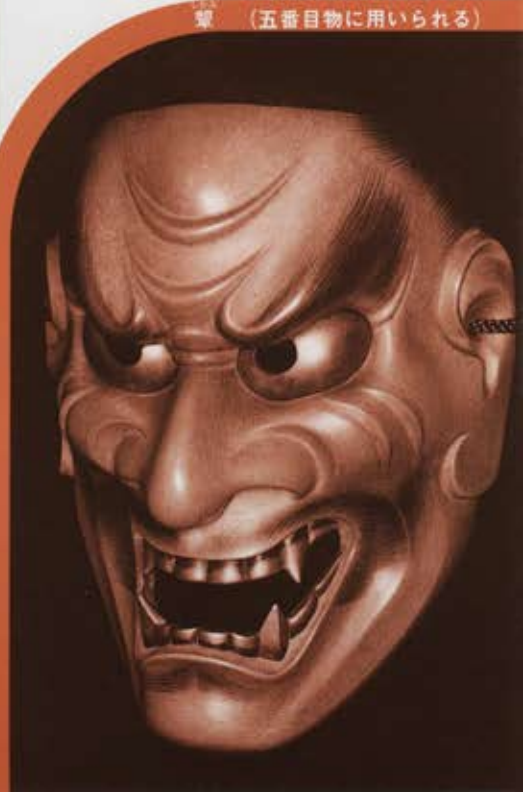
能面には、能楽五流（観世・宝生・金春・金剛・喜多）の家元によって、室町時代から代々傳承されてきた「本面」（能楽草創期の面）があります。また、後の各時代の創作面や写し面も数多く保存され、現在にいたるまで大切に使われています。

これらの有名面・名物面を手本にし、目標として、写し面の製作をおこないました。

今回、作品として完成した新作能面 約100点を展示しています。



十寸髪 (雑能に用いられる)



姫 (五番目物に用いられる)